

(別紙)

水稻の出穂状況（8月5日現在概況速報）について

農業普及技術課 農業革新支援担当

- 8月5日現在、県全体で43%の水田で出穂したとみられる。
地帯別の出穂割合は、北上川上流45%、北上川下流44%、東部33%、北部32%である。
- 県全体の出穂始期（10%出穂）は平年並の8月2日頃であるが、7月の低温・日照不足の影響で一部遅れがみられ、盛期（50%出穂）は平年より1日遅い8月6日前後に到達すると推定される。

表1 県内水稻の出穂状況（8月5日現在、各農業改良普及センター調べ）

地帯名	出穂割合 (%)				出穂時期							
	本年	過年次同時期			本年 (月/日)			平年 (月/日)			平年差 (日)	
		R1	H30	H29	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期
北上川上流	45	72	61	35	8/2	(8/6)	8/2	8/6	8/10	0	(0)	
北上川下流	44	75	66	41	8/2	(8/6)	8/2	8/5	8/9	0	(+1)	
東部	33	58	42	20	(8/3)		8/2	8/6	8/10	(+1)		
北部	32	38	56	11	(8/4)		8/3	8/6	8/10	(+1)		
県全体	43	72	64	37	(8/2)	(8/6)	8/2	8/5	8/9	(0)	(+1)	

注1) 出穂した水田の割合が10%を始期、50%を盛期、90%を終期（市町村単位で調査⇒作付面積による加重平均）。

注2) 平年は、平成22年～令和元年の10カ年の平均値。

注3) 括弧内は、一部の市町村で始期に達していないため、推定値として記載。

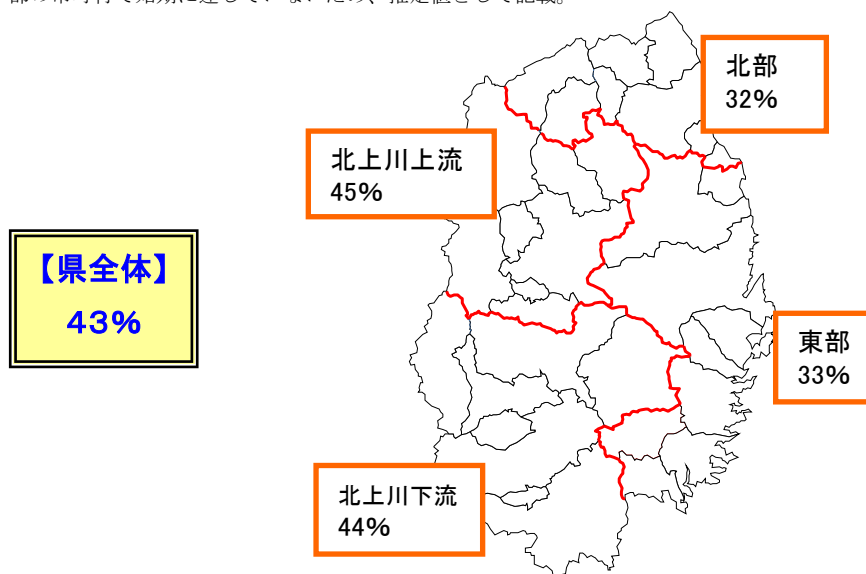


図1 水稻の地帯別出穂割合（8月5日現在：各農業改良普及センター調べ）

3 栽培管理のポイント

- 出穂・開花期間は最も水が必要な時期なので、田面が露出しないよう湛水状態で管理する。
開花終了後は間断かんがいを基本とする。
- 東北地方の1か月予報（仙台管区気象台，7月30日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%と予想されている。
気温が高い日が続く場合（概ね日中30℃以上、夜間23℃以上）、高温による玄米品質の低下を回避するため、積極的な水の入替えにより地温の低下を図る（特に夜温の低下に努める）。
- 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「多」の予想である。
穂揃1週間後の薬剤防除を確実に実施するとともに、カメムシ増殖源となる雑草（ホタルイ類等）の多発田では、追加防除を検討する。
- 穂いもち病は基本防除を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を実施すること。